

蜂の子を煎る日

宮坂静生



目をつぶり手合はせ蜂の子が煎られ
蜂の子を煎る焙烙もしくしくと
蜂の子を煎る日ひくだ降ちは魔が差すよ
蜂の子を煎る日憲法崩るる日
蜂の子煮空の奥処に父笑ひ
諏訪富士を据ゑて蜂の子飯を食ふ



草山のもみづるわれは吾あの奴隸
無花果はいそぎんちやくの身代りか
蓼科は鼓打つ山鷺菅よ
垂直の葉からもみづる峠神
木の実熟る重し重しと木が哭くよ
来る日支離来る日滅裂蕎麦稔る
霜降や八ヶ岳つのこぎり齒血より濃し
瀬戸内寂聴さんへ
稿を待つ隠座頭のこころもち